

消防団の特徴

地域密着性

消防団員は管轄区域内に
居住

要員動員力

消防団員は消防職員数の
約 5.5 倍

即時対応力

日頃からの教育訓練により
災害対応の技術・知識を習得

常備消防

(消防署など)

全国で

約16万人

地方公務員

常勤の職員が
消防業務に
従事している



市町村

消防団

全国で

約88万人

非常勤特別職の 地方公務員

それぞれの仕事を
もちながら、災害等の際に
その対応に当たる



連携

消防は、消火・救急など国民を災害から
守ることを任務とし、市町村が責任を持って
実施することになっています。

消防団役員 INTERVIEW

地震や火災など大規模災害時には、地元の消防団が現場に真っ先に駆けつけ、被災者の救出活動にあたります。その際に現地で負傷者の応急手当や治療にあたるのが、われわれ医師を含む消防団救護本部の役割です。

救護本部は現地に設置し、災害の状況や負傷者数などの情報を集めます。必要に応じて医療機関へ出動を要請するほか、負傷者を重症度、緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決める「トリアージ」を行います。

また、特に大規模な災害時には、市内の医療機関も被害を受けることが想定されるため、他市や他県からも災害派遣医療チーム「DMAT（ディーマット）」が派遣され、救護本部の指示により活動を行います。

このように救護本部は、災害の種類や規模に応じて臨機応変に対応することが重要です。そのため、総合防災訓練や水防訓練などのほか、普段から万一の時を想定した準備をしています。

救護本部長・副団長
鈴木隆一 さん



火災は、家の財産だけでなく思い出をも奪ってしまう悲しい出来事です。そのため我々消防団は、火災が起きないように、また、起きてしまったときに被害を最小限に食い止めることができるよう、日ごろから警戒活動や訓練に取り組んでいます。

また、先の東日本大震災から4年が経過しました。近い将来必ず起こるともいわれる大地震などの災害への備えも大切です。災害発生時、消防団は、市の地域防災計画や避難行動要支援者支援計画に基づき、消火活動のほか、負傷者の救助・救出、避難の支援などさまざまな活動を行います。そのため、地域をよく知る消防団の重要性はますます高まってきていると思います。

近頃は地域のつながりが希薄になってきているともいわれますが、現在野田市消防団は、30分団26部で合計742名の団員からなり、東葛飾地域で最大の規模を誇ります。自治会や自主防災組織との連携を高めるとともに、団員一人一人が“自分たちの地域は自分たちで守る”意識を常に持ち、市民の皆さんの期待に応えられるよう努力しています。

消防団長
中田弘二 さん

